

2020年3月期 第3四半期決算説明資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

グループコミュニケーション部 IRグループ

TEL: 03-3248-2113

URL : <https://www.nichirei.co.jp/ir>

単位：億円

	第3四半期				第3四半期(累計)				通期			
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/5発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
加工食品	607	22	4%	1,793	63	4%	76%	2,350	84	4%	2,350	0
水産	208	-15	-7%	538	-37	-6%	79%	660	-52	-7%	680	-20
畜産	240	-10	-4%	673	-24	-3%	74%	880	-31	-3%	912	-32
低温物流	528	-1	-0%	1,555	27	2%	76%	2,065	55	3%	2,046	19
不動産	12	0	0%	37	2	5%	80%	47	-1	-2%	47	0
その他	17	-3	-13%	41	-4	-9%	69%	60	2	4%	60	0
調整額	-55	-2	-	-161	-7	-	-	-212	-8	-	-215	3
売上高合計	1,557	-9	-1%	4,476	19	0%	76%	5,850	49	1%	5,880	-30
加工食品	55	10	22%	139	30	27%	86%	165	19	13%	162	3
水産	5	1	38%	6	1	13%	140%	4	2	119%	4	0
畜産	3	-3	-53%	7	-5	-43%	65%	9	-6	-38%	11	-2
低温物流	39	0	1%	96	2	2%	81%	118	4	4%	118	0
不動産	5	0	6%	16	1	3%	82%	20	-1	-5%	20	0
その他	1	-1	-52%	-3	-8	-	97%	-3	-6	-	-3	0
調整額	-1	-0	-	-4	-0	-	-	-8	-2	-	-7	-1
営業利益合計	107	8	8%	257	20	8%	84%	305	10	3%	305	0
経常利益	110	8	8%	264	21	9%	87%	305	6	2%	305	0
当期純利益	75	6	9%	170	7	4%	85%	200	1	0%	200	0

為替レート	2019年度	2019年度	2018年度
	見込	3Q実績	3Q実績
米ドル/円	110.00	109.15	109.61
ユーロ/円	122.00	122.66	130.97
パーツ/円	3.40	3.49	3.41

注：①当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指しております。
②為替レートの実績は1月～9月の期中平均で算出しております。

1.第3四半期(累計)

売上高は水産や畜産が減収となったが加工食品や低温物流がけん引し、全体では前期を上回る。営業利益は畜産とその他の事業(バイ材売上)が減益となったものの、加工食品が伸長し増益。

2.通期(見込)

売上高は主力事業は順調に推移するが、水産と畜産を下方修正。営業利益は加工食品と畜産の通期見込を修正するが、全体では前回予想から変更していない。

単位：億円

	第3四半期				第3四半期（累計）				通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/5発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減	
加工食品	売上高 計	607	22	4%	1,793	63	4%	76%	2,350	84	4%	2,350	0
	家庭用調理品	167	12	8%	478	27	6%	75%	636	33	5%	636	0
	業務用調理品	267	3	1%	769	14	2%	75%	1,005	21	2%	1,020	-15
	農産加工品	50	2	4%	153	2	1%	77%	200	7	4%	200	0
	海外	86	4	5%	263	21	9%	78%	352	26	8%	337	15
	その他	37	1	2%	130	-2	-1%	83%	157	-3	-2%	157	0
	営業利益	55	10	22%	139	30	27%	86%	165	19	13%	162	3

1. 第3四半期（累計）

- ①家庭用調理品は、「本格炒め炒飯」や「特から」など、主力商品の販売が好調に推移するとともに、おかずやおつまみなど多様な食シーンに向けた新商品の販売も寄与し増収。
- ②業務用調理品は、中食向けチキン加工品の販売が伸長したことや、業態別のオペレーション改善に向けた商品開発を進め増収。
- ③営業利益は増収効果や関係会社の業績が改善したことなどにより増益。

【今期の新商品】



2. 通期（見込）

- ①家庭用調理品の販売は好調を継続、業務用調理品は通期で増収を見込むも、第3四半期の進捗を踏まえ前回予想を下方修正。
- ②営業利益は関係会社の業績改善や生産性改善が寄与し、前回予想を上方修正。



国内事業が堅調に推移し、通期計画達成を見込む

単位：億円

	第3四半期				第3四半期（累計）				通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/5発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減	
低温 物流	売上高計	528	-1	-0%	1,555	27	2%	76%	2,065	55	3%	2,046	19
	国内小計	429	8	2%	1,251	34	3%	77%	1,636	44	3%	1,624	11
	物流ネットワーク	258	13	5%	756	45	6%	77%	990	53	6%	979	11
	地域保管	171	-4	-2%	495	-11	-2%	77%	646	-9	-1%	646	0
	海外	95	-2	-2%	282	-4	-2%	74%	379	-4	-1%	379	0
	その他・共通	4	-8	-68%	21	-3	-12%	50%	50	15	42%	43	8
	営業利益計	39	0	1%	96	2	2%	81%	118	4	4%	118	0
	国内小計	37	2	6%	91	3	3%	84%	110	7	7%	108	2
	物流ネットワーク	13	-1	-4%	34	-0	-0%	82%	41	2	5%	41	0
	地域保管	24	3	12%	57	3	6%	85%	69	5	8%	67	2
	海外	4	1	16%	9	1	8%	76%	11	-1	-11%	12	-1
	その他・共通	-1	-2	-	-4	-2	-	-	-3	-1	-	-2	-1

注：地域保管の一部の拠点を物流ネットワークへ移管

1. 第3四半期（累計）

- ①国内はTC（通過型センター）事業が堅調に推移したことや、旺盛な保管需要を背景に集荷が拡大したことなどにより増収。営業利益は増収効果や東京港湾地区の業績改善が進み増益。
- ②海外は現地通貨ベースでは前期を上回るが、ユーロ安の為替換算影響により減収。営業利益は新規顧客の獲得や、運送事業の効率化を進め増益を確保。

2. 通期（見込）

第4四半期も人手不足によるコストアップが継続するが、コストやサービス内容に見合った適正料金収受を継続するとともに、堅調に推移する保管需要を着実に取り込むことや、業務効率化の推進により増益を見込む。

水産は計画線上で推移、畜産は前回予想を下方修正

単位：億円

		第3四半期			第3四半期（累計）				通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		11/5発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率			増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	208	-15	-7%	538	-37	-6%	79%	660	-52	-7%	680	-20
	営業利益	5	1	38%	6	1	13%	140%	4	2	119%	4	0
畜産	売上高	240	-10	-4%	673	-24	-3%	74%	880	-31	-3%	912	-32
	営業利益	3	-3	-53%	7	-5	-43%	65%	9	-6	-38%	11	-2

1. (水産)

- ①「エビ」を中心に採算性重視の販売を徹底したことで減収となったが、中食・外食向けに加工品の販売が順調に推移し増益。
- ②第4四半期も引き続き施策を着実に実行し、営業利益の通期計画達成をめざす。

2. (畜産)

- ①中食・外食向け加工品の販売が伸長したものの、輸入豚肉の慎重な買付や、国産鶏肉相場が軟調に推移した影響により減収・減益。
- ②第3四半期までの進捗を踏まえ、前回予想を下方修正。

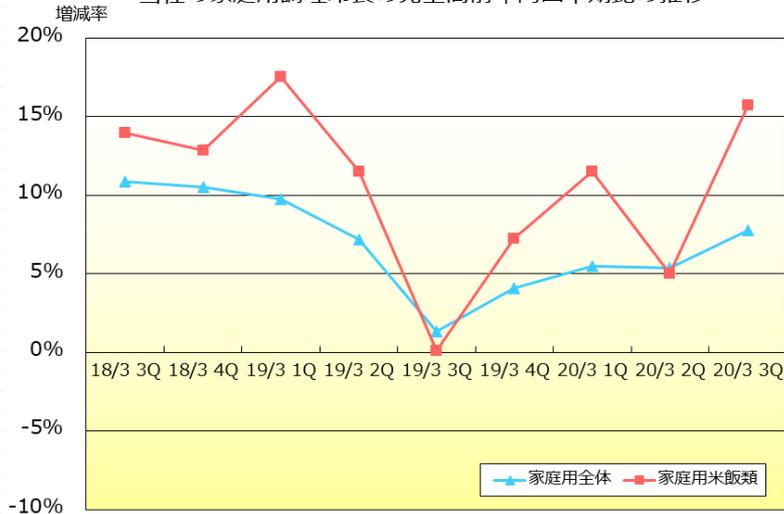
参考資料

営業外収支・特別損益の変動要因

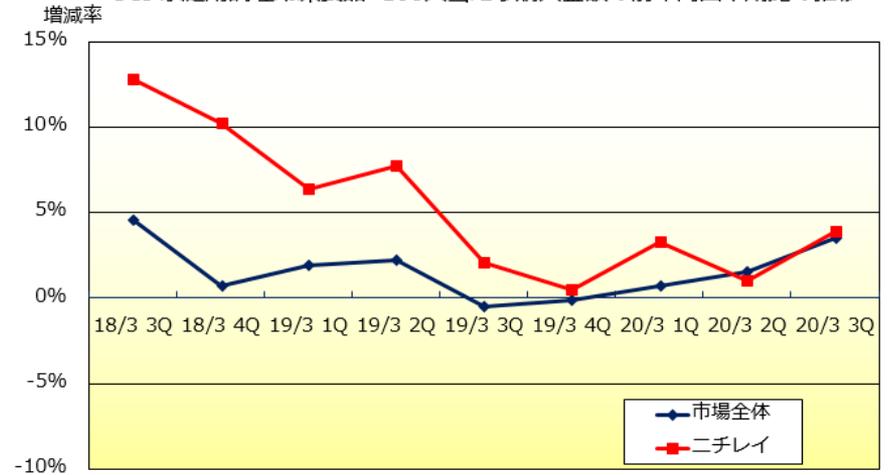
単位：億円（未満切り捨て）

プラス表示は利益を示す	第3四半期累計			通 期		
	18/12	19/12	増減	19/3	20/3E	増減
【営業外収支】 (主要項目)	5	6	1	3	0	△2
金融収支	1	1	0	0	△0	△0
持分法による投資損益	4	3	△0	3	1	△2
【特別損益】 (主要項目)	△0	△7	△6	△3	△10	△6
固定資産売却益	1	0	△1	2	0	△1
固定資産売却損・除却損	△4	△9	△5	△10	△16	△5

当社の家庭用調理冷蔵の売上高前年同四半期比の推移



SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移



出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入ルート=生協店舗を含む）

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。